

健康診査の主な検査項目と検査でわかること

検査項目 <単位>	基準値	※受診勧奨 判定値	要受診	この検査でわかること	
※BMI (身長・体重)	18.5～24.9			身長と体重の割合で、肥満か否かを判定する。	
血圧 <mmHg>	収縮期130未満 拡張期85未満	収縮期140以上 拡張期90以上	収縮期160以上 拡張期100以上	血圧が高いと動脈硬化が進行し、脳卒中の危険性が高まる。加齢とともに収縮期血圧が高くなりやすい。	
血糖 検査	空腹時血糖 <mg/dL>	100未満	126以上	126以上	血糖とは血液中のブドウ糖のことで、糖尿病発見の手がかりとなる。
	ヘモグロビン A1c <%>	5.6未満	6.5以上	6.5以上	長期間の血糖コントロールの目安となり、糖尿病検査として重要。
血中 脂質 検査	中性脂肪 <mg/dL>	150未満	300以上	1,000以上	増えるとHDLコレステロールが減少する。増えすぎると肥満や脂肪肝の原因になる。
	HDLコレステロール <mg/dL>	40以上	35未満		値が高いほど、動脈硬化や心臓病になる危険性が低い。
	LDLコレステロール <mg/dL>	120未満	140以上	180以上	増えすぎると、血管壁にたまり、単独で動脈硬化を進行させる。
肝 機能 検査	GOT(AST) <U/L>	30以下	51以上		これらはトランスアミナーゼといわれる酵素で、特に肝臓の異常発見に大きな威力を発揮する。
	GPT(ALT) <U/L>	30以下	51以上		
	γ-GTP(γ-GT) <U/L>	50以下	101以上		主に肝臓や腎臓、膵臓などに含まれる酵素で、肝臓や胆道に障害があると増加する。
尿 検査	尿糖	陰性(-)	陽性(+)以上		糖尿病で血糖値が異常に高い状態が続くと尿に糖が出る。糖尿病発見の手がかりになる。
	尿蛋白	陰性(-)	弱陽性(±)	陽性(+)以上	腎臓の病気を見つける手がかりになる。
腎 機能 検査	クレアチン <mg/dL>	男性1.00以下 女性0.70以下			腎機能が低下していると高値になる。
	尿酸 <mg/dL>	2.1～7.0			痛風発生の危険性がわかる。

※BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

※受診勧奨判定値…(必要に応じて)医師の判断により受診をお勧めします。